

NIE活動実践のポイント 【小学校】

日本新聞協会NIEアドバイザー
三原市立糸崎小学校 宮里 洋司



実践のポイント1

ねらいを持つ

▶ 「何のため」をはっきりとさせる

1 設定した資質・能力の育成・定着

→ 資質・能力の内容を活動レベルで具体化する

例：「主体的」

→ 自分の気になった記事を選択できる

→ 記事選択の理由を記述できる

→ 記事について考えを記述できる



実践のポイント1 ねらいを持つ

2 ○○力の育成

→○○を具体化する

例：考える力の育成

では「考える」とは何か

多面的に見る	変化をとらえる	順序立てる	比較する
分類する	変換する	関係づける	関連づける
理由付ける	見通す	抽象化する	焦点化する
評価する	応用する	構造化する	推論する
具体化する	広げてみる	要約する	学習指導要領において求められる思考の種類 泰山裕2014

そのために何をするか



実践のポイント1 ねらいを持つ

- ▶ 長期（年間）中期（学期）短期（月、週）の目的設定をすれば、現状分析をより具体的に詳細にでき、ショートスパンで方法に反映できる。
- ▶ 目的と方法を具体化すれば、活動の方向性（何のために何をするか）が整理できる。
- ▶ 目的のために最善な方法の工夫ができる。



実践のポイント2

いつでも どこでも N I E

- ▶ 校内環境
- ▶ NIEタイム
- ▶ 各教科等
- ▶ 委員会
- ▶ 各学年・学級
- ▶ 個人
- ▶ 発信



実践のポイント2

いつでも どこでも N I E

▶校内環境

・気になる記事紹介コーナー

先生や児童がピックアップした記事を掲示板、ボード等で紹介する。選択理由があるとぐっと身近に感じやすい。テーマを設定していろいろな人の記事を見る期間があっても楽しい。

・新聞が読めるコーナー

届く新聞が必ず読めるようにする。図書室、各教室、N I Eルーム、廊下等設置可能な場所に。曜日別の保管ボックス（幅10cm高さ30cm程度×7つ）を作れば1か月分の新聞収納が楽にできるのでお勧め。

・N I Eの学び紹介コーナー

N I Eタイムや自主学習、教科等で使ったワークシートやノートの中から、紹介したいものを選んで掲示する。感想、視点、まとめ方等、見る人の参考になる「すごい」の部分がわかりやすい掲示の工夫ができるとよい。

・学習役立ち記事コーナー

学習に関係する記事をスクラップしていく。そこにいけば〇〇に関係する記事がある、という場所に。学年別、教科別、事柄別等分類は自由。児童が次学年のために切り抜いてスクラップするのもあり。



実践のポイント2

いつでも どこでも N I E

▶ N I E タイム

- 固定概念にとらわれすぎない

「こんなことしていいのか」という枠を取り外すと、楽しくて新しい活動に。ねらいを意図した新しい取組にぜひチャレンジを。いつも同じパターンではもったいない。

- 非テキスト型（写真、イラスト等）活用

読み取れることだけでなく、なぜこの写真なのか意図を問い、その後記事の記述と関連付けて確認する等、高学年向けの活用法もたくさん。見出し（題）をつけ、理由を書いて紹介するのも楽しい。

- 教科関連型（カリキュラム・マネジメント）

教科内容定着のためにも効果的。社会や算数でグラフを扱った後にグラフのある記事を使う。国語の要約の学習の後にリード文のある記事を使う。ポイントは内容理解に時間をかけすぎないようにすること。

- 自由発想型

記事をもとに、新たな可能性を考えたり、イメージを広げたり、別解釈をしたりする。意見の対立のある内容もよい。解のない問いも楽しい。思考の制限を加えすぎない方が自由発想が広がりやすい。ぜひ交流をしたい。



実践のポイント2

いつでも どこでも N I E

▶各教科等

- 教科等のねらいを達成するため

授業時間にN I Eを取り入れるときは、教科のねらいのために活用することを忘れない。記事を使う必然性、必要感を必ず設定する。「〇〇力の育成」等を参考に、記事活用のねらいを具体的にしておくもよい。

- 直接資料として活用

記事そのものが資料として活用できることもある。学年によっては、未習語句へのふりがな、語句の意味説明、レイアウト変更、記事の要約（簡略化）等、必要な手立てをした後に使う配慮が必要。

- 間接資料として活用

学習への意欲や関心、内発的動機付け等に活用することもできる。N I Eタイムや自主学習等で関連内容の記事を意図的に活用することや、切り抜いた記事のスクラップ化しておいてもよい。

- 教科（内容）特性に応じて

花火大会の写真から音とリズムをイメージして楽器で再現する等、内容に応じてどの教科でもN I Eは可能。ただし、各教科等の特性や学習内容に応じた記事活用の工夫をすること。



実践のポイント2

いつでも どこでも N I E

▶ 委員会活動

- 取組の継続性

学校組織の中に位置付くことで、年度単位ではなく恒常的な取り組みにすることができる。また委員会として行う活動は、N I Eを学校生活の中に定着させ、児童に身近なものにすることができる。

- 主体的な活動

委員会の活動内容を工夫することで、新聞や掲示の取替等の作業だけでなく、児童が考えたアイデアを実現することも可能になる。校内コンクール等児童主体の活動を増やしていくことで、主体的な活動の幅を広げられる。

- 既存の委員会活動との合体

人数の関係上新たな委員会増が難しい場合も多い。その場合、新聞を置くことが多い図書室に関する図書委員会等、関係する既存の委員会に活動を加える形で増設することも考えられる。

- 「みんなで」

委員会内の活動だけでなく、広く学校全体で取り組める活動にしたい。学年学級からのおすすめ記事紹介や全国の新聞収集など、過程や結果が見える化し、みんなで楽しめる活動にすることで新奇性と継続性を高められる。



実践のポイント2

いつでも どこでも N I E

▶各学年・学級

・朝の会等での記事紹介

日直や当番が選んだ記事を紹介する。ポイントは内容紹介のみにならないこと。「なるほど」「へえ～」「すごい」「不思議」など、キーワードを使って選択理由を説明する方法もある。

・見出しゲーム

記事や社説の見出しを隠し、内容から見出しを推測する。9文字前後、本文内の表現との重複不可等の条件を付けてもよい。グループで行い、理由を発表しあった後に再考する等の方法もある。正解当てにしなくてもよい。

・テーマスクラップ

学習や行事に備えて（修学旅行や産業学習、地域教材、平和、環境、SDG s等）関連する記事をグループでスクラップする。模造紙で一覧性を高める、ノートで資料性を高める等、目的に応じてスクラップ法を変えるとよい。

・レイアウトチャレンジ

新聞は段組みが基本と思いがち。内容に合わせて花模様形レイアウト、動物形レイアウトにするなど、意外性や新奇性、おもしろさや楽しさ、メッセージ性等を優先した新聞づくりを楽しむ。掲示等で共有するのもよい。



実践のポイント2

いつでも どこでも N I E

▶個人

- ・スクラップノート

趣味の追求、スポーツへの特化、4こま収集等スクラップテーマありでも、その時気になる記事でも可。自分で決めて取り組ませたい。感想や解説、イラストや写真等ページ内のレイアウトも自由。楽しい継続を。

- ・ホームトーク

1つの記事に対してどう考えるか、家庭で記事に対する感想を聞いてきたり、話し合ってもらったりする。ワークシート形式、フリートーク等形式は自由。事前に家庭への説明が必要な取組。



実践のポイント2

いつでも どこでも N I E

▶発信

- 投稿チャレンジ

新聞の投稿コーナーへ、行事等特別な機会のことや、日記などをもとにした日常的なこと、学習や体験をもとにしたこと、社会の出来事から考えたこと等応募し、見方・考え方の広がりや深まりにつなぐ。

- 学級（学校）間学び交流

単元の終了後に学習のまとめを新聞形式で作成する。同学年の学級と交換し、作成した新聞を見合うことで「学んだことから学ぶ」ことができる。相手意識をもって新聞作成ができる効果もある。可能なら、交流可能な学校間（他県、他市町でも）での取組とすることもできる。

- ○○新聞

委員会、学級、係、グループ、個人等で、読者を明確して新聞を作成し、配付・掲示する。活動内容等の報告やお知らせだけでなく、意見、感想等のコラム的な内容も充実させたい。

- 子ども記者

今月（今週）の子ども記者を選定し、子どもの感性でテーマを決め、取材し、記事を作ってもらおう。内容は著作権や個人情報等に抵触しなければ自由。個人、グループ可。壁新聞、配付新聞、可能なら学校HP等で発信する。



実践のポイント3

うれしい たのしい おもしろい

N I E

- ▶ 「うれしい」
- ▶ 「たのしい」
- ▶ 「おもしろい」

この3つのキーワードがN I E活動のどこかにあれば、大成功。
「子どもが」「先生が」「保護者が」「地域が」・・・主語はどこにあってもOK
皆さんの笑顔が、一番大切です。

